

の観光客へのピーアールが、今後重要なポイントとなる。

(二) 網走市における事業化等スタートアップ支援事業、ものづくりフォロワーアップ事業について

①「産業構造の転換なしには発展は不可能」という担当者のコメントにうなづけるものがあり、アイデアから製品開発、促進、販路開拓まで補助事業が段階的に実施され、有機的につながっているユニークな政策であると感じた。

②CMを活用した宣伝効果が大きいことが確認できた。特に、一企業の製品を行政が宣伝するという姿勢には珍しいものがある。

③シテイセールスの観点からも、付加価値のある特産品開発を、市を挙げて取り組む必要がある。

④中小企業を育てる方策として、商品化への積極的な支援等が必要であり、本市においても、名物弁当開発事業を実施しているが、更に中小企業の幅広いアイデアを生かせるような制度に拡充していく必要がある。

⑤国の補助が得やすい産学官連携の研究開発等を、積極的に検討していく必要がある。

■市民福祉委員会

一 調査事項 ①環境保全について

て②国保介護について③子育て支援について

二 調査先 埼玉県羽生市、東京都稲城市、千葉県習志野市

三 調査項目

(一) 汚泥再生処理センター運営事業について

(二) 介護支援ボランティア事業について

(三) 幼保一元化施設運営事業について

四 調査日 十月六日から八日まで(三日間)

五 出席委員 福元委員長、大坪副委員長、江口委員、川畑委員、大田黒委員、堀之内委員、永山委員、新原委員、中島委員

六 調査の目的

本市において事業が実施中である、あるいは今後実施予定である汚泥再生処理センター運営事業及び介護支援ボランティア事業について、また、今後導入されるであろう幼保一元化施設運営事業について、その事業を先行して実施している他市を視察することにより、その導入効果等を学ぶことを目的とした。

七 所感

羽生市の汚泥再生処理センターは、従来のように、し尿や浄化槽汚泥を処理するだけでなく、生ごみなどの有機性廃棄物も併せて処理し、汚泥等の資源化を図る最新の施設であった。本市が整備を進めようとしている施設も、このようならばらしい設備の整ったものになるよう、羽生市を参考にしながら整備にかかわっていきいたいと感じた。

稲城市の介護支援ボランティア事業は、一定の社会参加活動をした者に対し、活動実績に応じて実質的に保険料負担を軽減するもので、高齢者が介護支援ボランティア活動を通じて介護予防を推進し、よりいきいきとした地域社会となることを目的としている。本市でも本年四月から実施している事業であるが、先進事例では、高齢者の方々がいきいきと、目的を持って毎日を生きておられる様子を感じることができた。

習志野市の幼保一元化施設運営事業では、子どもたちが安心して健全に成長できるよう、認定こども園を地域の子育て・子育てのネットワーク基地として、また、地域に開かれた子育て・子育て支援の拠点としており、幼稚園・保育所の合同施設にこどもセンターを設置することにより、各家庭のニーズに応じた保育や子育て支援を実施している。また、幼稚園・保育所のノウハウを融合させた習志野就学前保育一元カリキュラムに

よる保育や子育て支援を提唱し、実施することにより、幼保一元化を推進している。認定こども園のようにすばらしい施設があることは、子育て中の親にとっては嬉しいことであるが、待機児童の数などを把握した上で、行政、保育所、地域で十分な協議を重ね、推進していくべきであると感じた。

■建設水道委員会

一 調査事項 上下水道事業について(下水道料金体系の在り方及び温泉場地区の活性化計画について)

二 調査先 福岡県朝倉市、熊本県荒尾市

三 調査項目

(一) 朝倉市の下水道事業と温泉場地区活性化計画について

(二) 荒尾市の下水道事業について

四 調査日 十月二十九日・三十日(二日間)

五 出席委員 石野田委員長、谷津副委員長、上野委員、池脇委員、宮里委員、宮脇委員、山之内委員

六 調査の目的

本市の貴重な財産である温泉を生かした振興策、あるいは土地区画整理事業と一体的に進められて